

この度はJTC工具を御買上頂きまして、誠に有難うございます。
本製品をより安全・適切にお使いいただくために この取扱い説明書をお読みください。
取扱い説明及び表示の注意事項や使用方法は十分に理解した上で正しくお使い下さい。
この取扱説明書はお手元に大切に保管ください。

危険

設置場所の注意：本製品が転倒したり、地面の沈み込みの恐れがある軟弱な地面、凸凹の地面、傾斜のある地面等には設置しないでください。転倒や加工部品の落下等で重傷、死亡事故の原因となります。

作業者の注意：作業される方は必ず御使用前に取扱い説明書を熟知し本製品の使用方法をよく理解してください。さらに各部の操作に慣れ、圧力の調整作業をゆっくりと慎重に行える方が作業してください。不慣れな方は重傷、死亡の事故の原因となります。

本体の分解、修理、改造はしないでください。

警告

- 本製品は、シリンダー等の油圧機器を作動させる為のエア式油圧ポンプです。
- 本来の用途以外で使用すると、損傷・破損、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- 誤った使用方法により生じた、商品破損、人体への傷害、物品への損害、その他のいかなる損害に対しても、当社では一切の保証、並びに責務を負いかねますので、ご了承ください。
- 使用前や定期的に、損傷・破損、作動不良、異音、油圧オイルの漏れなどの異常がないか点検してください。
- 使用中、損傷・破損、作動不良、異音、オイル漏れなどがある場合は、ただちに使用を中止してください。
- 異常がある場合、お買い求めの販売店までお問い合わせください。
- 油圧ホースを無理に曲げたり、縛ったり、物を載せた状態で使用しないでください。
- 作業中、作業手順や周辺の状態への安全確認を怠らないようにし、事故に注意してください。
- 使用者以外、使用場所や保管場所に近づけないでください。
- 特に子供や幼児は、危険な行動をとることがあるので、絶対に近づけないでください。
- 直射日光、暖房器具や温度上昇する機器の側で使用しないでください。
- 本製品は、屋内専用です。屋外での使用は止めてください。
- 屋外での使用は、本体故障、損傷・破損、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- 高圧ホース、高圧パイプ及び継手などは、最高使用圧力 70 MPa のものをご使用下さい。
- 能力を超える使用はしないでください。破損及びケガをする恐れや事故の原因となります。
- 設置場所の作業環境温度は 0℃～ 40℃以内です。
0℃以下はオイルが硬くなり作動不良の原因となります。
- 設置場所はチリやホコリが多くある場所に設置しないでください。シリンダーやポンプにゴミが付着するとオイル漏れの原因となります。
- 水気のある場所、水が掛かるような場所に設置しないでください。

1. 商品に関する重要事項

すべての部品に輸送時の損傷がないか検査してください。輸送中の破損は保証の対象外となります。輸送中に破損が見つかった場合は、すぐに運送業者に連絡してください。輸送中に生じた損傷による修理および交換の費用は運送業者が負担します。

2. 安全規制

すべての指示、警告、注意事項をお読みください。使用中は、人身傷害や物的損害を避けるために、すべての安全規則に従ってください。メーカーは、安全でない製造、通常のメンテナンスの欠如、操作、または不適切な使用によってユーザーが引き起こした人身傷害および物的損害については責任を負いません。安全保護や対策についてご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

以下の警告と注意事項に従わない場合、機器の損傷や人身傷害が発生する可能性があります。

注意 - 適切な操作、メンテナンス手順、および怪我や怪我を避ける方法を示しています。

機器およびその他の財産への損害。

警告 - 回避するために正しい手順と実践を必要とする潜在的なリスクについて説明します。

人身傷害。

危険 - 重大な傷害や死亡事故につながる可能性のあるあなたの行動（または行動の欠如）を指します。

警告: 高圧油圧システムを操作する場合、ユーザーは適切な労働保護具を装備する必要があります。

警告: 油圧システムによってサポートされている荷重の下に留まらないでください。シリンダを荷重持ち上げ装置として使用する場合、荷重保持装置として使用しないでください。荷重を持ち上げたり降ろした後は、荷重を下降させてください。機械装置によってしっかりとサポートされています。

警告: 重い荷重を支えるには硬い物体を使用する必要があります。荷重に耐えられるスチールまたは木製ブロックを慎重に選択してください。ジャッキや押し出し用途でシリンダーをクッションブロックとして使用しないでください。

危険: 怪我を避けるため、作業中は手と足、シリンダと作業スペースの間に一定の距離を保ってください。

警告: 荷物を持ち上げるときは、シリンダの定格負荷を超えないようにしてください。過負荷になると、機器の損傷や人身傷害が発生する可能性があります。シリンダーの設計最大圧力は 70MPa です。ジャッキとシリンダーをより高い圧力定格のポンプに接続しないでください。

注意: リリーフ圧力バルブをポンプの最大圧力レベルよりも高く設定しないでください。設定が高すぎると、機器の損傷や人身傷害につながる可能性があります。

警告: システムの最大作動圧力は、システム内の最低圧力定格部品の最大作動圧力を超えてはなりません。

注意: ホースを損傷しないようにしてください。ホースを排水するときは、過度に曲げないようにしてください。

ホースのねじれ過度に曲がったりねじれたりしたホースを使用すると、重大な損傷が発生する可能性があります。ホースを過度に曲げたりよじったりすると、ホースの内部構造が損傷します。ホースが破損し、チューブの早期破損につながります。重い物体がオイルチューブを押しつぶさないようにしてください。

劇的な影響は、チューブの内部の編組鋼に損傷を与える可能性があります。損傷したオイルチューブ油圧が加わると破裂する可能性があります。

重要: 油圧機器を持ち上げるためにホースや回転ジョイントを引っ張らないでください。

持ち運び用ハンドルまたはその他の安全な方法を使用してください。

注意: 油圧機器を裸火や過度の熱から遠ざけてください。

過度の熱によりライナーとシールが柔らかくなり、オイル漏れが発生する可能性があります。熱はホースの材質やパッケージが弱くなる可能性があります。最高の働きを実現するためにデバイスを 65 °C 以上の温度にさらさないでください。溶接の飛び散りによるホースとシリンダー。

危険: ポンプ圧力がかかっている状態ではホースに触れないでください。加圧されたオイルからの飛沫が皮膚に浸透し、重大な傷害を引き起こす可能性があります。加圧されたオイルが皮膚に接触した場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

警告: システムが完全に接続されている場合にのみシリンダーを使用してください。システムが完全に接続されていない場合はシリンダーを使用しないでください。オイルタンクに過負荷がかかると、各部品に修復不可能な損傷が生じ、重大な傷害につながる可能性があります。

警告: 持ち上げる前に、取り付け部品が安定していることを確認してください。シリンダは荷重に耐えられる平らな面に設置してください。

回避: シリンダの中心を通過する荷重の力線を避けてください。偏心荷重によりシリンダーとピストンにかなりの張力が発生します。荷物が滑って落下する可能性があります。危険です。

警告: 荷重をサドル表面全体に完全に分散するには、ピストンを保護するために必ずサドルを使用してください。

重要: 油圧機器は、資格のある油圧技術者によって保守される必要があります。



1. エアの供給

エアー供給口にエアーコンプレッサーのエアーを接続します。
ポンプの作動空気圧は、0.75 ～ 0.85MPa です。

2. レバー操作

レバーを握ると、ポンプが供給を開始します。
シリンダーにオイルを供給します。
レバーを離すと停止します。

シリンダーのエアー抜きの方法及びオイル量に付きまして



- 初めて使用する時、又はシリンダーが正常に作動しない時はエアー抜きを行ってください。
- エアー抜きを確実に行わないと使用中にクレーンが降下する可能性があります危険です。

油圧ポンプのエアー抜きの方法

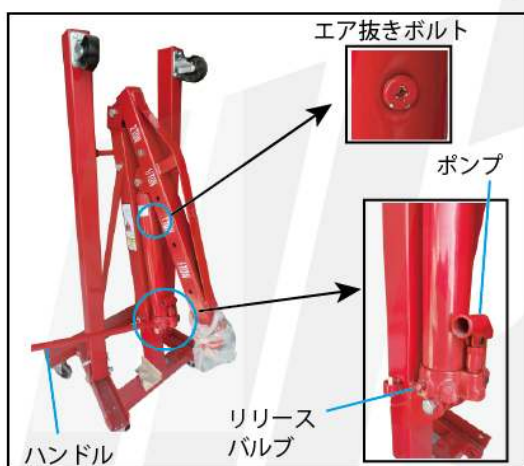


写真 2



写真 3



- シリンダーを下降させた状態でエアー抜きボルトを外してください。(写真 1)
ポンプのリリースバルブをハンドルを使用して右に回して締め込みます。(写真 2)
ポンプ部にハンドルを差込ポンプを上下してシリンダーを一杯まで上昇させます。(写真 3)
リリースバルブをゆっくりと緩めて一杯まで下降させてエアーを排出してください。
この作業を 2～3 回繰り返しシリンダー内のエアー抜きをして下さい。

注意：この時にエアーとオイルが一緒に出る場合があります。ウエスでボルト穴を覆いながら作業してください。エアー抜きを確実に行わないと使用中にクレーンが降下する可能性があります。

※エアーが抜けな時はオイル量を確認してください。

正常に作動しないときはお買い求めの販売店又は弊社へお問い合わせください。

メンテナンス

定期的に各部のネジの増し締めしてください。キャスター、伸縮ブームリンク部分の可動部分には注油してください。

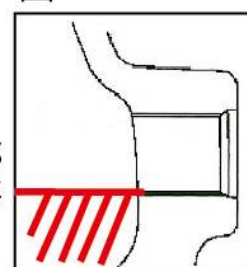
※ 1 年に 1 回、油圧ポンプのオイル交換をしてください。

使用オイル：作動油 ISO VG32

オイル量の点検：シリンダーを下降させた状態で垂直に立てエアー抜きボルト穴の下端部まである事を確認してください。

- 本体よりシリンダーを取り外します。
リリースバルブを反時計回りに回します。
- エアー抜きボルトを取外して、廃油受け等に排出します。
- 新しいオイルをエアー抜きボルトの穴より補充します。
エアー抜きボルトを締めてエアー抜き作業をしてください。

図 1



オイルが穴の下端部まである事を確認

輸入発売元

JTC Auto Tools 株式会社

E" M : info@jtcautoools.co.jp

FAX : 0834-36-0010